

2006年4月7日(金) — 第1回 —

JA ささかみ 田んぼの生きもの調査

里山からの湧き水に恵まれる「沢口A」

田んぼ



調査日時：4月7日

参加人数：40名

参加団体：JA ささかみ、パルシステム、新潟大学

調査地点：沢口A (ふゆみず / 不耕起 / 有機栽培)

押切A (やよい水 / 不耕起 / 有機栽培)

調査項目：基礎調査、イトミミズ・ユスリカ調査、

ヤマアカガエルの楽園

今年は4月始めまで肌寒い日が続いていた、ささかみ地区。ようやく春めいた気候となった4月7日、今年度第1回目の調査が行われました。JA ささかみの生きもの調査は3年目を迎えます。調査にはJA ささかみの生産者のほか、30年近く産直活動続ける生協パルシステムの職員が研修を兼ねて、また新潟大学の学生が学習の一貫として参加しました。

3月から水を張る「やよい水田んぼ」である「押切A」田んぼと、1年間水を入れっぱなしにしている「ふゆみず田んぼ」の「沢口A」で調査。押切Aでは、昨年の調査より

は、昨年の調査よりもたくさんのイトミミズがみつき、生きものの豊かさが年々増している様子でした。また、沢口Aでは、イトミミズの数を押切Aよりも少ないことがわかりましたが、「ヤマアカガエルのオタマジャクシがたくさん生きているため、餌になっているのではないか」(粟生田忠雄新潟大学助手)と予想されています。JA ささかみの大豆を活用する豆腐工場や、オリジナルの堆肥を作る堆肥場の見学会も開かれ、参加者は真剣な様子でJA ささかみ担当者の解説に耳を傾けていました。

JA ささかみ DATA

産地特徴：独自の堆肥センターを運営、20年前から有機農業を行なう。首都圏の生協との産直活動が続け、消費者交流を年5回以上行なう。

主な出荷品目：こしひかり、もち、豆腐、酒



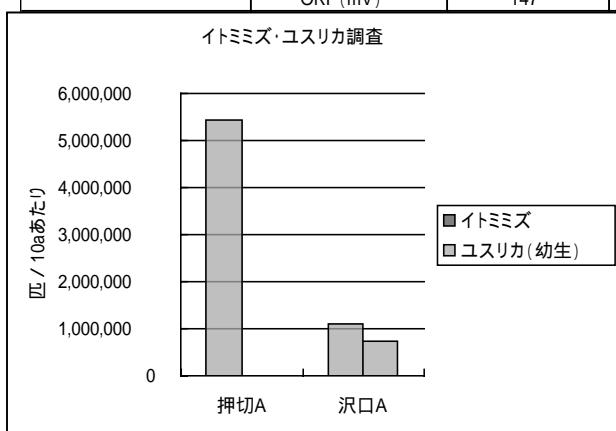
結果発表！

JAささかみ 第1回調査 2006年4月7日PM3:30

水田名		押切A	沢口A
農法	水管理	やよい水	ふゆみず
	耕し方	不耕起	不耕起
	農業・化学肥料	有機栽培	有機栽培
土のなかの生きもの調査 (10aあたり匹)	イトミミズ	5,417,000	1,083,000
	ユスリカ(幼生)	0	750,000
生息環境調査	天気	くもり	晴れ
	気温()	10.5	10.1
	水温()	17.9	16.2
	水深(cm)	5.0	-
	pH	7.36	6.41
	EC(mS)	0.06	0.565
	DO(ml/l)	10.7	8.65
	ORP(mV)	147	-35.5



泥を採取。土のなかの生きものを調べる。



見つかった生きものたち

押切 A：田んぼノミズダニ、センチュウ

沢口 A：田んぼノヨコノミ、センチュウ、ミズダニ、ドブシジミ、ゲンゴロウ(幼生)、ゴモフガムシ、ミジンコ、ヒル

データを読む！ 粟生田忠雄 先生

押切 A は、本来は積極的に湛水をしたかったのですが、排水性が高すぎたため、一部だけの湛水となりました。土壌中のイトミミズの数、は、昨年と同時期の調査よりもずっと増えています。

沢口 A では、多数のヤマアカガエルのオタマジャクシが見つかりました。イトミミズは昨年同時期の調査より少なくなりましたが、オタマジャクシの餌になったことも原因と考えられます。



粟生田忠雄(あおうだ ただお)

1987 年新潟大学農学部修了。1995 年新潟大学大学院自然科学研究科環境学科専攻課程修了。1995年農学博士取得。現在新潟大学農学部助手。専門分野は土壌物理。土壌中の水分や圧力変化を追跡しつつ、作物生育に適した土壌環境について研究。